大学教育カンファレンス in 徳島
APシンポジウム
反転授業ワークショップ

平成２６年１月６日（水）

10:10～11:40（1時間30分）

徳島大学常三島キャンパス　4号館302講義室

総合教育センターICT活用教育部門

プログラム（予定）

- 10:10～10:15（10分）　挨拶、趣旨説明、実践者紹介
  - 総合教育センターICT活用教育部門長　金西計英
  - ＜実践者＞
    - 徳島大学大学院医歯薬学研究部　西川啓介先生
    - 徳島大学大学院医歯薬学研究部　南川貴子先生
    - 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部　山本真由美先生
    - 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部　森賀俊広先生
    - 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部　芥川正武先生
    - 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部　武藤 裕則先生（ポスターのみ・登壇なし）
    - 総合教育センター　金西計英先生
- 10:20～10:50（30分）　ポスターセッション
- 10:50～10:55（5分）　質問受付、パネルディスカッション用の机の設営
- 10:55～11:25（30分）　パネルディスカッション
- 　　コーディネーター：金西計英、パネラー：実践者の先生方
- 11:25～11:40（15分）　総括、アンケート

パネルディスカッションでの質疑応答

- 事前準備は何をしたか？どのぐらい時間やコストをかけたか？
- 学生は事前学習をしてくるのか？してこない学生の対策は？
  - 芥川：ビデオ20分程度、自前テキストをLMSからダウンロード。ビデオが20分だと長すぎるようだ。ビデオを見た後、前日までに確認問題。7割ぐらいが前日の朝、授業直前に100%になる。見てこなくても実験は行う。他の学生やTAへの相談が可能なので、実験は何とかなっている。
  - 西川：ビデオではなく自前のWeb資料。LMSから見れるようにしている。公開時間を指定して、その時間しか見れないようにしている。
  - 南川：ビデオと小レポート、前日まで提出を指示。100%の提出率。レポートを書いていないと授業が受けられないようにしている。
  - 森賀：ビデオを用意している。初めは9割ぐらいの学生が見てくる。徐々に見る人が減り、2割ぐらいの学生は見ていない。見ていない学生や課題をしてこない学生はいるが、本人任せ。大人の対応。
  - 山本：心理学の授業では事前にMoodleに資料をアップしている。見てこない学生はいるが、グループワークには何とか参加できている。

反転授業の評価、効果はどうか？（普通の授業と比べて）

- 芥川：実習時間に余裕ができるのでよかった。授業評価アンケートでは、学生からの評価は普通の授業とあまり変わらない。専門科目の導入教育なので、興味のある学生が特に熱心に取り組んでくる。熱心な学生が増えた。予習をやる上の方の学生がさらに伸びる。底上げが課題。
- 西川：3年生は臨床経験がない。事前資料からの情報がフラットに伝わる。重要な箇所は、対面で伝えることが重要のようだ。
- 南川：アンケートを取っているが、今後はルーブリック評価などが必要かも。学生から反転授業ばかりというクレームも来るので、他の授業との兼ね合いを考える必要がある。
- 森賀：それほど反転授業のクレームはない。過去の授業では、授業のビデオを見てくる学生は3割ぐらいだったが、反転授業にしたら少なくとも8割の学生は見てくるようになった。頻度が上がった。反転授業にした分、対面で時間の余裕が出来てフレキシブルなことができるようになった。
- 山本：グループディスカッションの時間が増えることは意味があると思う。

反転授業が増えると学生は大変なのはその通りだが、本来は予習・復習は当然とも言える。学生への説明はどうしているか？

- 芥川：もともと1単位当たりの学習時間は定められているので、本来の授業に戻ったと言える。
- 西川：今のところクレームはないが、みんなが反転授業をやると怒りだすかも。
- 南川：あらかじめ課題をやる時間をしっかりとる。余裕のある締め切り設定が重要。
- 森賀：今のところクレームはないが、もし学生からクレームがきたら本来の学習時間の話を説明したい。
- 山本：学生からのクレームで反転授業を取り下げた。自分が学生だったらと考えると、すべての授業で本来の学習時間をまともにやると寝る時間が無くなると思った。教養教育は少なめでもいいのでは。